

株式会社スペースクリエイション 代表取締役 青木邦章
(東京高専 機械工学科 8期 ; 1977年卒)

子供の頃から、空・雲・風そして海・川など、移ろいやすいモノ(流体)に心惹かれた私は、流体力学を学びたい思いから高専の機械工学科へと進みました。在学中からグライダー模型・カヌー・ヨット製作などを行ない、卒研も風洞実験を選び、卒業時には趣味が高じてプレジャーボートのトップメーカーであるヤマハ発動機に入社。10年間船舶用エンジン開発に従事した後、30歳で兼ねてよりの計画どおり、独立起業を果たし、現在に至っています。

社名はスペースクリエイション、「Not Production But Creation (製造ではなく、創造を!)」を企業理念として、25名で日夜、計測制御系装置の開発に勤しんでいます。創業当時は製造業のロボットや、農林水産業の自動化設備など、幅広く設計製作業務に携わっていたものの、この十数年は自動車をはじめとする輸送機器開発向けの試験設備に特化集中して事業運営しております。お客様は国内主要自動車メーカー・ティアワン部品メーカーをはじめとして、最近では米国・中国・インド・タイ・インドネシアなど、世界各地に向けて製品出荷しております。

さて、開発エンジニアとして40年近く、ベンチャー経営者として30年近く過ごしてきた者として、あらためてこの機会に高専というものを振り返ってみたいと思います。高専のメリットは早い時期から実践よりの工学知識を修得できること、自由な校風の中で主体的な人格形成ができること。反面、デメリットとしてはリベラルアーツを学ぶ機会が限られており、かなり意識的に自己啓発をおこなわないと偏った人材となってしまう、社会全般で幅広く活躍する上では課題が多いことだと考えます。21世紀を生きていくためには、国内外問わず、また自然科学・社会科学・人文科学の領域にとらわれずに、幅広く自己研さんを継続していくことが大切だと思います。